

日本留学の感想

順天堂大学大学院医学研究科神経学講座

マリダン ヌルマイマイティ

私は日本から直線距離にしておよそ 4,348 km離れた遠い世界にある東トルキスタン（新疆ウイグル自治区）からやって来た、ウイグル族出身の留学生である。子供のころからわかっていたことは、日本製家電製品や自動車などがみんな大好きで、すごく人気だったということである。その時に頭の中で初めて「日本の知識、技術はすごい」という印象が芽生えた。それから、私が小学生のころから始まった日本の漫画やアニメに対する興味も日本への印象をもっと深めることになった。

1990年代後半、インターネットの広がりによって、世界で海から最も遠いところにいる我々が、世界をもっと知るチャンスが生まれてきた。その中でも、将来医者になりたいという夢を持っていた私にとって、日本は知識、技術や発明生産能力や経済水準などだけでなく、医療水準もずっと世界トップレベルであることがわかった。おそらく、これが日本留学の一番のきっかけだと思う。そして、大学に入る前から、本当の力を持っている立派な医者なるために、ぜひ日本に留学して、世界トップの医学を学ぶという夢を持つようになり、やっと 2015 年にその夢を実現することができた。

来日してからはほとんどは最初の日本語学校、次に大学院も含めた学生生活だった。そして、その間にやってきたいろいろなアルバイトでの半社会人生活も楽しかった。その中で、来日から私が感じてきた日本のイメージは、それ前のものと比べて同じところがほとんどだった。例えば、とてもきれいな、発達した国日本は確かに前に思っていたのと同じように別の世界だった。日本人は今まで見てきた知人の中でもとても礼儀正しい民族だった。日本人の負けず嫌いで、いつも非常にまじめな態度にすごく感動した。さすが、大和民族日本人だ。

そして、やはり以前の印象と少しずれているところもあった。例えば、日本に来る前に聞いていたのは、日本人は本が大好きで、普段電車の中ではみんな本や新聞を読んでいるということをよく耳にした。今自分の目で見たら、やはり日本人は書籍が大好きだった。ただし、電車の中で本や新聞を読んでいる人もまだいるが、少ないし、その人たちはほとんど年上の人だった。若い人はほとんど本の代わりにスマートフォンにはまっていた。

来日してからの印象の中で、一番びっくりしたのは最近の日本人の結婚率と人口の増減率だった。今の若い日本人は結婚があまり気にならないようだった。最近日本では人口の増減率はどんどん下がっているし、あと 50 年で日本の人口はどうなるのか、こんな素晴らしい民族がだんだんいなくなるのかなど、いろいろなことでちょっと心配していた。

初めての海外生活、日本に到着してから、ルールや生活の常識が違うため、何度も壁にぶつかったこともあった。しかし、留学を決めたのは私自身、苦しくても耐えるしかなかった。苦痛も孤独もやる気に変えて、一生懸命がんばった。これは、留学する人には避けられないことである。しかし、努力は自分を裏切らない、アルバイトではじめての日本人の友達ができ、奨学金に受かり、奨学金のおかげでアルバイトもやめて、時間をサークル活動と勉強に回して、楽しい大学生活を満喫し、やっと大学院を順調に卒業することができた。

この数年間の留學生活の中での一番の感想としては、困難に遭ったとき、逃げずに、諦めずに、困難に向き合って、努力を貫くことが大事だということだ。例えば、事が自分の思うように行かなくても、諦めないでください。今不足している部分を考えて、その欠点を埋め合せば次はきっとできる。

最後に留學を考えている方へ。留學して最初の頃は、文化の違いや言語の壁、そして経済面の問題、様々な挑戦に向き合わなければならない。誰しも辛い目に遭ってしまうだろう。しかし、諦めてはいけない。苦難を乗り越える経験は、きっと人生の宝になる。人生の修行だと思いながら、初心を忘れずに頑張ってください。

2021年3月